

旬花報

17号

平成31年3月31日

発行
群馬県立女子大学
同窓会事務局

370-1193 佐波郡玉村町上之手 1395-1
TEL: 0270-65-8511
URL: <http://shiu-kai.com/>

紫桜賞

15年の歩み

同窓会のみならず、日頃より同窓会活動に、温かいご支援とご理解をいただき、心よりお礼申し上げます。

学生のみならず、日頃よりみなさまのご活躍を新聞等で拝見することも多く、同窓会としていつも誇らしく思っております。

同窓会の「紫桜賞」では、みなさまのご活躍をたたえるため、毎年「紫桜賞」を授与しています。11月以降に公募のポスターが大学内に掲示されますので、目に留めたこともあるのではないかと思います。

具体的には、「紫桜賞」は、文化、学術、スポーツ及び社会活動などの振興に努め、群馬県立女子大学に顕著な貢献を



同窓会長
野村留美子

した学生団体や学生個人に、その功績をたたえて授与する賞で、賞金もお渡ししています。また、受賞者は次年度の入学式において、新入生の前で表彰されるという榮譽を与えられます。

「紫桜賞」は平成15年から始まり、昨年度までに14団体、3個人が表彰されています。

そして、平成30年度の紫桜賞も決定いたしました。年々高いレベルでの選出となっていることは、同窓生としてうれしい限りです。今後も多数の応募をいただけることを切に願います。

平成30年度 紫桜賞

決定！

少林寺拳法部

少林寺拳法部は、部員五名で構成されています。

週二回、県立女子大体育館二階にて、技の練習や心身を鍛える体力トレーニングを中心に活動しています。日によつては少林寺拳法の学科講習に時間を充てることもあります。



少林寺拳法は本来勝ち負けを争うものではありませんが、普段の練習成果の発表の場の一つとして、または他大学との交流の場の一つとして、大会が開催されています。平成30年7月8日に渋川市赤城体育館にて開催された、全国大会の予選でもある群馬大会では、部員一名が一般女子単独演武の部で準優勝、部員二名が大学生女子組演武の部で優勝しました。そして、平成30年10月27日、28日に高崎アリーナで開催された「全国大会 in ぐんま」において予選突破！決勝進出を果たしました。(中略)

部員たちは、普段の練習を通じて社会に貢献できる人間を育てる指導者になることを目標に、日々、練習に励んでいます。

(応募書類より抜粋して掲載)

紫桜賞 受賞者・受賞団体

- 平成30年度
 - 少林寺拳法部
 - アロハダンスサークル
 - アロハダンスサークル
 - 平成27年度
 - 国際コミュニケーション学部2〜4年20名
 - 国際コミュニケーション学部4年 萩原 梢さん
 - 平成26年度
 - 国際コミュニケーション学部 社会デザイン論ゼミナール
 - 平成25年度
 - 国際コミュニケーション学部4年 前田 舞さん
 - 平成24年度
 - 国際コミュニケーション学部3年 林 ひろみさん
 - 平成22年度
 - 美術美学史学科実技ゼミ
 - 平成21年度
 - 女子大バトロールの会
 - 平成20年度
 - 第27回錦野祭実行委員会
 - 平成19年度
 - 第26回錦野祭実行委員会
 - 平成18年度
 - 群馬県立女子大学GGM
 - 平成17年度
 - ほんやら堂最終選考組 (美術美学史学科)
 - ネットボール部
 - 平成16年度
 - 錦野祭実行委員会
 - 平成15年度
 - E・S・S
 - ダンスサークル(Burning Soul)

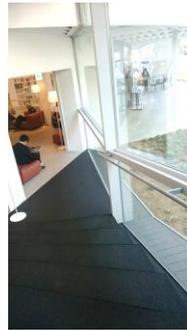
OG 訪問「太田市美術館・図書館」

最近、群馬県内外のさまざまなメディアで「太田市美術館・図書館」のことが取り上げられています。それらの報道の中で、紫桜会発足後8年間初代会長を務めてくださった城代富美江さんが館長に就任されていることを知りました。折しも、今年は紫桜会発足20周年を迎えます。そこで、12月8日、野村会長、渡邊副会長、一倉副会長の3名で訪問し、インタビューをさせていただきました。

駐車場に車を止めると、私たちの目に壁面いっぱいに並んだ本や展示の文字など内部が分かる建物が目に入ってきました。太田駅北口に建てられた美術館と図書館の複合施設。おしゃれな外観、隅々まで計算しつくされた内装。なぜこの場所に、コンセプトの異なる2種類の施設を造ったのか、不思議な思いで足を踏み入れました。

私たちが訪れたこの日、美術館では「愛でるボタン展～アイリスのボタンづくり」が開催されていました。太田市内にある株式会社アイリスはボタンづくりで日本一のシェアを誇り、ものづくりの街太田を代表する産業の一つです。同社運営の「ボタンの博物館」が所有する貴重なボタンが特別展示されていました。

吹き抜けの館内には、座り心地のよい椅子や建設途中の写真をモチーフにしたクッションが配置されて



おり、利用者の使い勝手を考えて作られていました。また、館内のあちこちに設置されている自習スペースも広々と設計されていました。

その後、城代さんからお話を聞くことができました。インタビューは建物の紹介、見学を交えて行いました。

Q.現在の仕事内容について聞かせてください。

A.「太田市美術館・図書館」は太田市役所の文化スポーツ部美術館・図書館課という一つの課に位置付けられています。さらに、学芸係と管理係の二つに分けてられています。館長といえども、組織の一員ですので、予算や施設の管理にはじまり、すべての仕事に携わっています。予算編成や決算の時期には、市議会の決算委員会、予算委員会への出席も大切な業務です。

Q.太田市美術館・図書館では、イベントの企画など経験がないと難しい仕事も多いのではないかと思います。

A.太田市役所では市史編集室や市町村合併の仕事に携わってきました。ここに来る前には新田荘歴史資料館や高山彦九郎記念館で働いたこともあるので、仕事の流れは大体頭に入っています。

図書館の選書については、世界の絵本・児童書、アートブックやものづくりに重点を置いて、準備の段階ではJBBY（日本国際児童図書評議会）やディレクション業務のワコールより提案をいただきました。

2018年の夏には、本と美術の展覧会で詩人・最果タビ（さいはて たひ）さんや管啓次郎（すが けいじろう）さん他の詩を、グラフィックデザインを用いて展示するという企画を行いました。今後も、若い人達が面白がって来館いただける企画をしていきたいと思っています。

Q.通常は美術館と図書館は、それぞれ単独で建設されることが多いですが、2つの施設を複合しようと考えた意図は何でしょうか。↑

A.そもそも「太田駅北口のにぎわいを取り戻す」という考えから建設されました。

今日も「ボタン展」と関連して、クリスマスボードを作るワークショップを行いました。同様のワークショップや落語会、映画の上映、マルシェの開催など多くのイベントが企画されています。

また、併設されたカフェ&ショップ、和洋250誌におよぶ雑誌コーナーがあるので、電車の待ち時間や仕事帰りなどに立ち寄ってくださる方もいて、ありがたい限りです。

おかげさまで2017年1月のプレオープンからのべ60万人に入館していただいています。

Q.今後の展望についてお話しください。

A.気負わず気軽に来られるような憩いの場にしてきたいです。

また、本館だけでなく、他市町村の美術館などと連携していければと考えています。

併設されているカフェ「キタノスミス」では、自家製や地元の食材にこだわってつくられたメニューが取り揃えられており、美術鑑賞や読書で疲れた脳に優しいお店です。

たくさんのイベントや講演会、ワークショップなどが企画されています。HPにアップされていますので、ぜひチェックいただき、足を運んでみてください。

ボランティアも募集しているそうです。アカデミックな空間で業務のお手伝いをできたら楽しいですね。

城代さん、お忙しい中、ありがとうございました。

小林良江学長をお迎えして

群馬県庁

「群馬県立女子大学友の会」

懇親会 報告

平成30年11月8日(木)

群馬県庁31階

欧州料理レストラン「ヴォレシーニ」

群馬県庁「群馬県立女子大学友の会」は、群馬県庁に入庁した卒業生で構成する会で、70人ほどの卒業生が名を連ねています。例年、新たに加わる会員の歓迎会を催してきましたが、今年は残念ながら該当者がいないこともあり、懇親会という形での開催になりました。折しも群馬県庁は翌年度の予算編成作業の真っただ中。業務で多忙な皆さんは集まってくれるかな…という幹事の心配を吹き飛ばすように、12人の会員が集まってくれました。

ゲストとして、小林良江学長をお迎えして、女子大の公立法人化などの大学改革や少子化問題を始め、2020年が開学40周年となること（開学間もない時期に在学していた身には衝撃的な数字です）などを伺いました。また、来年度入庁予定者がいるとの情報には、「仲間が増える」とみんなで喜びました。

会員の近況報告では、現在の職場の様子、家族の話、学生時代のエピソード

などの話題に対してあちこちから質問が出るなど、さくくばらんな会話で大いに盛り上がりました。

最後はクリスマスツリーをバックに記念写真。

小林学長には、「大学事務局などで見知った人もいて、仕事上の同窓会のような感じだった」とのお言葉をいただきました。貴重なお時間をいただけて親しくお話しすることができ、更に女子大が身近に感じられました。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

同じ組織の中の集まりは、顔のつながりがあると、仕事の面でもそれ以外でも何かと円滑に進むことも多いのではないかと思いますので、職場に卒業生が複数いるようでしたら親睦を深めてみませんか？



寄付金を 頂戴しました

平成30年6月18日、群馬県立女子大学・学長室にて、元国際コミュニケーション学部国際ビジネス課程教授で、現在は、目白大学メディア学部メディア学科教授の 安齋 徹先生より、10万円の寄付金をいただきました。

ご厚意に深く感謝するとともに、学生のために有効に活用させていただきます。



2020年は

4年に一度の

懇親会の年です

2000年に開催された第一回目の懇親会は、学食を使って行われました。そこから形を変えながら開催されて、数年前からは「オリンピックキヤー」に集まることとなりました。懐かしい先生方も参加してください、毎回、穏やかで楽しい時間を過ごしています。

まだ一年以上先ですが、恩師や友達同士で誘い合わせてご参加いただけるよう、話題に上げてくだされば幸いです。

♪ 編集後記 ♪

紫桜会は、今年度、発足20年になりました。折しも、時代は平成から新たな時代に移ろうとしています（原稿を書いている今、まだ新元号は発表されていません）。

平成になったとき、私は大学一年生でした。平成が終わろうとしている今振り返ると、私にとって、とても変化が大きかった時代だと思えます。今大学生である皆さんは、新しい時代に本当の意味での自分の人生が始まるのだと思います。皆さんの未来が充実したものになるよう、応援しています。